

# 秀吉の城下町づくり

史山博物館学芸専門員 森 岡 榮

## はじめに

現代都市のルーツは、近世の城下町に求められる。今からおよそ四百三十年ほど前から全国各地に数多くの城下町が計画的に建設され、その多くが現在でも地域の中心都市として機能している。これらの都市では、城下町時代から今なお続く空間構成が、随所に現存している。第二次世界大戦の爆撃などで破壊された都市でも、一から街路を造り直すのではなく、城下町時代の整然とした街路をもとに、復興されている。つまり現代都市は、城下町と強い連続性を持ちつつ存在しているのである。

また現代社会のルーツも城下町に求めることができる。中世に戦国大名の割拠した在地社会の統合によって、一元化した公権力が生まれ、統一政権が形成され、今日に続く国家の基盤がつくられた。この公権力の一元化は、城下町の建設を通して強力に進められたのである。現代の日本において、地域おこしのために

「天守」や「櫓」が復元・復興されるのは、これらが、城下町のシンボルであるためである。また城下町の景観保存や町並み復元も、地域の誇りと活力を取り戻す有力な手段となっている。これらは、城下町が現代都市と強い連続性を持つからである。

近世城下町のうちでも「長浜」は、その最も早い時期の建設であり、この意味で現代社会のルーツといっても過言ではない。この現代社会のルーツ・長浜町の造形成について、のべてみよう。

## 一、小谷城下町から 長浜城下町へ

### ①秀吉の湖北領有

天正元年（一五七三）九月一日、小谷城本丸を織田信長自身が攻撃し、浅井長政はこれを支え切れず、赤尾屋敷に入って自害した。ここに、江北において五十有余年にわたって覇をとなえた戦国大名浅井氏が滅亡した。秀吉は一躍湖北三郡を領する大名となった。

人が居住し、商人町もあつたとの伝承があり、浅井氏に直接従属する手工業者が居住していたのである。

小谷城下の町屋地区は、資料などから他国商人が往來・居住し、質屋・商人宿もあつたことがうかがえる。そして最終段階には、長さ二キロメートルに及ぶ大規模なもので、かつ機能的にもかなり整備されていたことがうかがえる。長浜に移転する直前に、秀吉によって集中整備が行われた可能性もあるが、基本的に浅井氏時代に成立していたと考えられる。

## 二、近世城下町のルーツ・長浜 秀吉の城下町づくりとその構造

### ①それは八幡別宮の移転から始まった

天正二年（一五七四）の築城開始と同時に、城下町の建設も始まったと考えられる。秀吉は最初に城下町の建設予定地の「真ん中」にあつた坂田郡八幡別宮を、城下町の東端に強制的に移転させた。これは、寛文六年（一六六六）十一月に記述された『江州湖東八幡並びに三祭礼ノ由来』に、神輿が御旅所に渡つた際に、ただちに大手町の「仁右衛門」が神酒を奉る。ちなみにこの「仁右衛門」は、現在の本宮ノ旧跡ナレバナリとあることより裏付けられる。ちなみにこの「仁右衛門」は、現在の「小山」商店のことである。この場所に坂田郡八幡別宮の本殿があつたのである。つまり坂田郡八幡別宮の本殿と様々な建物で城下町

町予定地の中心部分に鎮座して広大な神域を誇っていたのである。そしてその南側に門前町、そしてさらに南側から西側にかけて港があつたと推定される。

秀吉はこの中世的な権威である坂田郡八幡別宮が、城下町造成に大きな支障となっていたために強制移転させる。この行為は、中世の権威を否定するもともと近世的な行為といえるのである。

### ②城下町の移住は縦町が

秀吉が坂田郡八幡別宮の跡地に、最初に造成した町は、今浜村や近隣の横浜村などを主体として作つた大手町と東本町・西本町、東・中・西の魚屋町と北町、そして上船町・瀬田町・横濱町・大安寺町などであつた。その後天正八年（一五八〇）ころまでに小谷城下から南北の伊部町や上・中・下の呉服町、大谷市場町や鍛冶屋町、坂田郡箕浦から箕浦町の人々が移住させられ、城下町のほぼ中心部分に成立したと思われる。つぎに、天正九年（一五八一）小谷城下町第二期移転によって、郡上町や知善院町などが形成されたのだらう。

長浜の町割を詳細に検討すると、町通りが長浜城に対して縦に走り、この通り（東西通り）に間口を開く町「縦町」が、通りが城郭に平行して走り、この街路（南北通り）に出入口のある「横町」よりも優先しているという事実がある。これは、町の南に位置し、「横町」を構成する箕浦町を例にとれば、「縦町」である瀬田町

**奥琵琶湖 真鴨の星**  
 湖北の厳寒のなかに育った真鴨は、肉がよく引き締まり、味が深みが増す。同じ鴨を食すならぜひこの地の鴨を、鍋料理にてお楽しみください。

福すき  
恒泊プラン  
1人1食 (税別)  
**9800円**

**平成16年春、新館オープン!**  
 奥琵琶湖を眺める展望風呂の宿  
遊真伊勢郡 長浜町曹浦590  
遊真旅館  
遊真旅館  
遊真旅館  
遊真旅館  
遊真旅館  
遊真旅館

Tel 0749-89-0360  
Fax 0749-89-1363  
http://www.kotji.jp/suzurac/

### ②小谷城下町の町屋

小谷城下町の町屋は、北国街道沿いの現在の湖北町大字「郡上」から「伊部」にかけての地域であつた。この範囲で地割を検討すると、周囲の条里地割とは異なつた、道路に面した間口の狭い、町屋に通用な短冊型の地割が見られる。小字では、町間・浦屋敷・小谷市場・東本町・西本町・木町及び、蒲生・堀田・馬乗場・金定・護子・清水本・鍛冶屋田の各街道沿いの部分である。このうち、小谷市場と西本町の西部分では、街道に平行して街路がもう一本通り、別の両側町を形成している。また浦屋敷は、その名からも片側町の可能性が高い。また現在の小谷寺北側の北谷（小字の川北・長渡り・持田）は、奥に弓を製造する職

と横浜町に分断されて、米川の南側に町の一部が飛地として存在している。これは、箕浦町より瀬田町と横浜町の成立が早かつたためと考えられる。また北国街道沿いに「横町」を構成する呉服町は、「縦町」である大手町と魚屋町によつて分けられ、南から上・中・下の三町に分割されている。これは、その各町成立の順番が、まず先に大手町や魚屋町・瀬田町・横浜町などの「縦町」が成立したことを示し、この次に空地であった「横町」を埋める形で町が成立したと考えられる。

### ③秀吉の視線が貫く町「本町」

長浜城下町の地名で、「大手町」や「本町」は城下町の根幹をなす名前、城下町造成にあつたところ最初に成立した部分と推定される名である。これがいずれも「縦町」であることは、その成立が「横町」より古いことを立証しているのだらう。

また「本町」は、その延長上に長浜城の天守が望め、秀吉の天守からの視線が貫く町でもある。そして町の基軸にもなっている。また小谷城下町とその付近から長浜へ移ってきたという伝承のある寺院は、いずれも「横町」か町の端際に位置し、「横町」と小谷城下からの移転町との関連を補強している。建築学の立場から、幕末の元治元年（一八六四）の長浜町切絵図を用いて長浜町割りについで復元的考察をおこなつた大場修氏も、現状の道幅が「横町」より「縦町」が広い点を

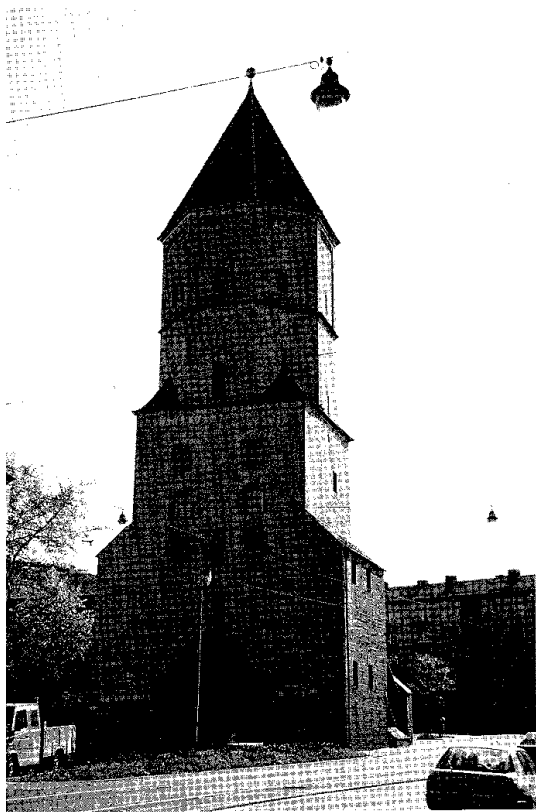
から長浜の町に入る道に建っていた。長浜の町は、町民が自分たちの町を自ら治めた。江戸時代という封建社会のなかで、自治都市的な雰囲気を持った数少ない町のひとつだ。町年寄がソフト面での自治都市の象徴なら、ハード面での象徴が木戸なのだ。

**ブルクはドイツ語の砦や城壁**

そこで連想するのがアウグスブルク市。長浜市民はよく知っている。ご存知、ドイツにある姉妹都市だ。ここに、中世に築かれた門が残っている。もともとブルクというのは、ドイツ語で砦や城壁を意味する。ハンブルクやローテンブルクなど、ドイツにはやたらにブルクが付く都市の名前が多い。フランス語でいうとブール。そういえば、ドイツ国境の近くにシュトラスブールという都市がある。

これらの都市は、城壁がまわりにあり、町の入り口にいくつもの門があった。その後、町が大きくなり、じやまになるから壊してしまったり都市もあるが、アウグスブルクには、いくつかの門と水路の堀が残っている。

中世諸侯から自治を勝ち取ったドイツの町は、城壁と広場と教会を三要素として造った。現在の都市の原型ができたのは十一、十二世紀のころ。商人や職人といった住民が成長し、集まって住みはじめた。そして、まず



▲アウグスブルクの町に残るブルク

町を外敵から守るために、壁や堀をめぐらし門を築いた。これが自衛権のシンボルだ。次に、町の中心に大きな教会を建てた。これが信仰と結束のシンボルになる。そして、教会に接して市を開く広場を設けた。プラザとかプラッツと呼ばれる場所だ。これが市場経済のシンボル。そのあとに、町をみんなで治めるための公会堂として市庁舎を建てた。これが住民自治のシンボルである。

**アウグスブルクにも城壁が残る**

ブルクに囲まれた町に住む人たちは、自分

たちのことをピュルガーと呼んだ。これがフランス語でいうブルジョワの始まり。日本では、裕福な人からかって「あんた、ブルジョワやね」なんて言うけど、ほんとは独立した市民のことなんだ。ブルガー、つまり市民は自分たちで町を守り、その運営を相談し決定してきた。アウグスブルクのようなドイツの町は、数百年という自治の歴史のうえに、現在の町ができてきている。だから、自分たち市民のルーツでありシンボルである、ブルクの門や教会、広場、市庁舎をとっても大切にす。数年前、アウグスブルクを訪問したとき、市役所の方がこんなことを教えてくれた。

江戸時代の長浜  
木戸とブルクは住民自治のシンボル  
長浜とアウグスブルクの歴史から見えるもの



▲平成八年の「北近江秀吉博覧会」のオープニングに建てられた巻夜門。

江戸時代、長浜の町に木戸があったことは意外と知られていない。木戸といっても、芝居小屋の入り口にある小さな木戸ではない。往来のど真ん中にアインと立っていた。黒壁の北にある巻夜門（写真）に、両開きの扉が付いているようなやつだ。

何に使ったかという、町の安全を守るため。町にはいろんな人たちが集まってくるし、街道を通り過ぎていく。なかには、夜中にくるついでに危害を加えるような、かなり危ない連中もいる。そういう連中から町を守った。「でも、長浜の町に入る道はぎょうさんありませ。そこらじゅうに木戸が要るんやあう」という疑問がわくでしょう。そう、主な通り七カ所に木戸があったのだ。木戸というよりも門に近い。そういう門が、東西南北

長浜へ入る道に七カ所の木戸

歩歩り きっさ ぽぷり  
 自慢の自家製チーズケーキと  
 大人気の黒ごまソフト  
 ぜひ一度ご賞味ください！  
 長浜市元浜町14-26 ゆう香番街商店街内  
 ☎0749-68-2789  
<http://www.popuri.net/>  
 パソコンの各種設定から  
 トラブル復旧、HP作成など  
 なんでもご相談ください。  
 出張サポートOK!  
 まちのパソコン便利屋さん  
 ☎0749-63-7065  
 オフィス ぽぷり